

# 海の博物館～海を体験しよう！～



海は多様性に富んでいます。しかし、昨今、海の環境が変わりつつあります。磯焼けや貧酸素水塊、ごみ問題など海の環境破壊が進んでいるのです。このような問題に対処するためには、海の環境を考え行動する人を増やす必要があります。実物資料を数多く所蔵し、いくつもの体験学習プログラムを用いて、子どもたちを海にいざなってくれる、鳥羽市浦村の『海の博物館』の取り組みをご紹介します。

\*水中の酸素量が極めて少ない水塊、または水域。

## 海の博物館

海の博物館は、漁村の振興と漁村の青年の教育を目的に発足した財団の趣旨に沿つて、漁業のことを一般の人々に広く知つてもらうため、昭和46年、鳥羽市に開館しました。

開館3年ほど前から準備に入り、三重県の海岸線1082km上にある、当時132あつた漁業地区で漁撈関係の資料を集め始めました。

明治16年の第1回水産博覧会出品のため、三重県が作成した『三重県水産図解』に掲載されているものから収集し、現在では、国が指定する重要有形民俗文化財6878点を含む、約6万点の資料を所蔵しています。

資料は博物館のいのちです。海辺を歩いて、漁師や海にたずさわる人のもとに足を運び、何度もか違う間に、相手とのコミュニケーションが生まれ、情報だけではなく、貴重な資料を譲つてもらえることもありました。

「博物館の仕事は冥利につきる。資料集めは人と接する楽しい仕事だ。苦労ではない」と、石原館長は言います。

平成元年には、海にも面した現在地に

### 【お話を伺った人】



海の博物館  
館長 石原 義剛さん

海を守るSOS(Save Our Sea)運動や「海女文化」をユネスコ文化遺産に登録する運動などを展開し、自然環境や漁業の保護に力を入れています。



海の博物館  
学芸員 平賀 大蔵さん

最近は、子どもたちと一緒にアマモをふやす活動に取り組んでいます。

資料を展示して見せるだけではなく、資料から得た多くの情報を発信している『海の博物館』でお話を伺つてきました。

漁業を伝えるためには、まず海を知つてもらわなければなりません。博物館では、このすばらしい環境を使いながら、海そのものをフィールドとした体験学習を組み上げてきました。特に、子どもたちには、海を体験させることがとても大事だと考えていました。



漁業にまつわる多くの資料を展示をしています。